



ザハイテックマスターズ J.P.

工業大国日本を支える匠たち



看板製品の「片サドルPRO」は、素早くしっかりと施工でき、見た目も美しいと人気



埼玉県戸田市

三雲製作所

自宅のアンテナから電波塔まで ケーブルを固定する片サドル



施工環境に合わせて、1点止めだけでなく、両止めも可能

自宅の屋根、庭、ベランダなどにアンテナを設置した際、気を使うのが配線の取り回しだ。中でも、同軸ケーブルを何で固定するかは特に重要。ピッタリと壁面に設置が可能で、風雨にさらされても長持ちする支持金具を選びたい。そこで、埼玉県戸田市にて、全国で注目を集めている片サドルメーカー、三雲製作所を訪ねた。「最近では、一般住宅だけでなく電波塔や発電所などで使用されるようになり、現在月産100万個のサドルを製造するようになりました」

そう語るのは、2代目社長の三雲啓

志さん。同社は元々、大手クルマメーカーにワイパー部品やハーネスの留め具などを製造する精密加工が主な業務。そんな三雲製作所がサドル製造を始めたのは、12年ほど前。付き合いのあった電気工事士からの一言が発端だ。

「当時、建築系の会社が製造していたステンレス製のサドルが、なぜか錆びてしまうというんです。調べてみるとSUS430というステンレス素材が使われていました。これは、ステンレスとはいえ風雨に強くない、錆びやすい素材。SUS304という、より耐食性



ネジ止める際、手を離しても落下しにくい

自社製の金型でのプレス加工が精度を決める



リール上に巻かれたスチールやステンレス材を、カット・プレス加工して製造。一連の動作は1ラインで最適化されている

のある素材をご提案しました」

販売数が逆転！ 従来品を超えたワケ

しかし、当時の市場では、サドルは1社の独占販売に近い状況だったため、代替製品は見つからなかった。「そこで、電気工事士の方の頼みもあり、SUS304を使用したサドルを作り差し上げたのです」

サドルは、リール状の素材を決められたサイズにカットし、プレート状になった素材を金型に当ててプレスをすることで出来上がる。同社の技術であれば、製作自体は可能と判断したので。

「現場の声を聞くと、素材の違いはもちろん、施工がしやすく、しっかりと固定でき、なおかつ安全にケーブルを取り付けられるサドルを提供してほしいといわれました」

従来のサドルにはバリや角があり、施工者が作業中に手を切ることが多かったという。

「そこで、バリを研磨し、徹底的に除去、鋭角なラインを作らず滑らかなデザインに仕上げました。また、従来のものはケーブルにピッタリとフィットせず、ドリルで固定する際に手で押さえていないと落ちてしまいます。片手がぶさされると、ドリルにビスをセッティングできません。片サドルにケーブルを合わせてギュッと絞るだけで、外形にフィットして落ちないよう、金型精度を作り込みました。これには、30年近く精密部品の金型を製造してきたノウハウを注ぎ込みました」

サドル製造の挑戦者から 業界をリードする製造者へ

三雲製作所の片サドルは長期的な安定性に配慮し、他社製品と比べ、

スチール製で1.5倍、ステンレス製で約1.7倍の支持力を実現。さらに環境面に配慮し、業界で初めて3価クロムメッキを施した片サドルを販売。これは、かつて金属メッキで使用されていた、毒性の強い6価クロムに代わる塗料として注目されている。

「人が使うものだから、安全で使いやすく長持ちするものを提供していきます。また近年は、見た目の美しさや、より安全性の高いモデルを開発中です」

普段何気なく使われている片サドルだが、新技術の投入により、常に進化を遂げてきている。ケーブルを固定する際は、ぜひ作り手の熱意を体感してほしい。

ケーブルが損傷するリスクをさらに軽減するため、現在はプラスチック製の保護カバーを取り付けた製品を開発中



代表の三雲啓志さん

三雲製作所

埼玉県戸田市

下戸田1-15-14

TEL 048-442-1620

FAX 048-443-5520

http://www.mikumo.biz